

グループホームまこと 運営推進会議 議事録

平成 28 年 1 月 27 日 (水)

14 時～15 時

小規模多機能型居宅介護まこと 2 階

司会 西崎 (小規模管理者)・柴田 (グループホーム管理者)

書記 石井 (グループホーム管理者)

参加者：

- ・山田 清典様 (釧路ケアカレッジ 校長)
- ・佐渡 広成様 (グループホームまこと ご家族様)
- ・木田 孝志様 (小規模多機能型居宅介護まこと ご家族様)
- ・西村 ミヨイ様 (民生委員)

1 挨拶

2 事業運営報告

- ・ 11 月・12 月のサービス利用状況 (小規模・グループホーム)
- ・ まことでのサービス内容、行事等 (小規模・グループホーム)
- ・ 利用者ご家族様からの声
- ・ 11 月・12 月の事故報告について
- ・ 地域包括支援センター様・居宅支援事業所様からの声

3 質疑応答 (意見交流)

4 その他

- ・ 小規模多機能
- ・ 町内会活動、地域交流への参加について
- ・ ボランティアの受け入れ
- ・ 今後の活動 等

(2) 事業運営報告

- 11～12 月の介護度別サービス利用状況
(11 月 30 日・12 月 31 日付)

要介護	11月 小規模	12月 小規模	11月 グループホーム	12月 グループホーム
要支援1	1名	1名		
要支援2	0名	1名	0名	0名
要介護1	6名	6名	0名	0名
要介護2	9名	9名	1名	2名
要介護3	5名	5名	9名	8名
要介護4	2名	2名	2名	2名
要介護5	3名	3名	6名	6名
計	26名	27名	18名	18名

西 崎：利用者の変動あり。要介護3の利用者様が1名利用解約、同じく要介護3の方が新しく利用開始。要支援2の方が1名増え27名となっています。

柴 田：12月に要介護3の方が住宅型有料に転居となり、要介護3が1名減っています。新しく住宅型有料から入ってきた方が要介護2で、総人数の変動はありません。

■小規模まことでのサービス内容・行事等

- ・11月5日(木) 外出レク in 高山ゴミ処理場 5名参加
- ・11月6日(金) 外出レク in 高山ゴミ処理場 6名参加

西 崎：内容としては施設の説明をしてくれるブースで話を聞き、どのような流れでゴミが投げられているかのビデオを鑑賞。その後は実際にゴミを投げているところを見学しています。

- ・11月10日(火) まことクッキング～蒸しパン作り～ 11名参加
- ・11月19日(木) まこと工作 ～クリスマスツリー作り～ 12名参加

西 崎：まこと通信にも載っています。紙コップでクリスマスツリーを作成し、皆さん喜んでいました。

- ・12月7日(月) まこと工作 ～ポンポン作り～ 13名参加

西 崎：忘年会で使用するポンポンを作成しています。

- ・12月14日(月) クリスマス会 20名参加

西 崎：内容は職員が事前に用意したかくし芸をしたり、踊りを踊ったりしています。利用者様も喜ばれていました。

- ・12月20日(日) 第6回まこと大忘年会 21名参加

西 崎：無事事故もなく終えています。

■グループホームまことでのサービス内容・行事など

- ・11月3日(火) ナルクボランティア
- ・11月13日(金) おやつ作り～かぼちゃ団子作り～

- ・ 11月20日(金) 誕生日会 (バイキング・ランチ) 1F
- ・ 11月23日(月) 誕生日会 (バイキング・ランチ) 2F
- ・ 11月27日(金) たこ焼きランチ 1～2F 合同

柴 田：11月は食事レクを中心に行っています。おやつ作りの他、誕生日会として今回、外食はせず事業所内でバイキングを行っています。27日は利用者様とたこ焼きを作って食べるレクを行いました。

- ・ 12月1日(火) ナルクボランティア
- ・ 12月3日(木) 誕生日会～手作りケーキでお祝い～
- ・ 12月6日(日) まこと講習会
- ・ 12月10日(木) 年忘れ大運動会 1～2F 合同
- ・ 12月20日(日) まこと大忘年会
- ・ 12月25日(金) クリスマス会 1～2F 合同

柴 田：12月は体を動かすレクを取り入れました。大運動会の内容は玉入れや、利用者様が立ち歩かなくても上半身だけで楽しめるような運動を取り入れて開催しています。クリスマスは職員の余興を見る形になっており、二人羽織やクリスマスにちなんだ歌を歌っています。利用者様は楽しまれ、たくさん笑っていました。他、日常の家事の手伝いやカラオケレク、作品作りなども随時行っています。

■利用者ご家族からの声

小規模

- * まことさんを利用出来るようになって良かったと思います。もし利用してなかったら母をどう対応して良いか途方に迷っていました。

(T.K様 家族より)

西 崎：この方は12月から利用しており、このご家族様はそれまでお母様と暮らしていました。1週間利用してからこのお言葉を頂きました。特別な事をした訳ではないが、今まで福祉施設を利用したことがないため喜ばれていました。現在も元気に通われています。

- * 通いで来られた利用者様の通所手帳や衣類など、間違えて入れ替えてしまう職員が多々見られており、大きなクレームにこそならないが、それぞれ役割に責任をもって仕事をしてください。

(小規模まこと管理者より)

西 崎：通いの利用者が1日平均7～8人いて、入れ変りによって物を間違えてしまう事が多々見られている。ご家族様には穏便にして頂いていますが、甘えることなく「これは恥ずかしいことである」事を私の方で周知・指導をしています。

- * 今、GHやよいに母が入居していますが、小規模で長期の宿泊している父との同居は考えてません。また出来るだけ、父と会わせないようにしてほしい。

(O.T様 ご家族様より)

西 崎：9月30日に緊急として3ヶ月程度、ショートステイを利用し今に至っています。GHやよいが1室しか空いていなく、現在はO.T様の奥様が入居しています。本当はやよいがもう1室空いたらO.T様も行く予定でしたが、家族（長女様）より心変わりがあったのか1室空いたにも関わらず、その時にこの話がありました。今後O.T様がしばらく小規模を利用するか特養を申し込むか検討している状態です。なぜこのような事になっているかという、O.T様自身が破天荒な暮らしをしていた元漁師である。奥様に対しての言動も酷かった為「なるべく会わせないでほしい」とF aより話がありました。当の本人様は口は悪いのですが、涙もろい性格もありまして「妻に会いたい」と話す事もありました。忘年会で見かけた際、本人は「妻に会えた」と号泣していました。娘様には管理者の方から会っている事を報告し「それは良かったです」と返答されていました。

柴 田：お母さんは一緒に暮らしたいとの話がありますか？

西 崎：認知が強すぎて誰だかが、わかっていなかった。やよい職員から「旦那さんだけわかるかい？」の問いに「わかんない」と答えていたようです。「よそのおじさんだ」と言っていたようで、お母さんの方はわかっていなかったようです。ずっと手を握って泣いていたんですけど、お母さんの方は手をパツと離していました。恥ずかしかったのかなと思っていたら、「よそのおじさんに手を握られた」との印象だったようです。今後はこのまま様子を見ていこうかと思っています。

* 管理者さんのお陰で、もう一度、妻が元気に小規模に通うことが出来ました。今後も宜しく願いいたします。 (K.M様 ご家族様より)

西 崎：背景としては、9月くらいから体調を崩していました。K.M様は週に2回利用されている方で、介護度も要介護1と低い方です。嘔吐等疾患が不明な事が多々ありまして、小規模も休みがちでした。11月はほとんど訪問のサービスを2回いれるくらいしか利用していませんでした。管理者の方から今後利用が遠のくのも本人のために良くないため、解約という考えはない。元々良好な関係性だったため、何回か顔を出しに行ったり、本人の状況確認の電話をし「何かあったら、こちらから伺うこともできますよ」と伝えやり取りしています。そのやり取りを続けて行くうちに信頼関係も生まれ、旦那様も「またまことに通えるように頑張りたい」との事で言っています。この方ビルの3階に住んでいる方で、本人だけでは下りるのが困難になってきたというなら、「私達が送迎の時に直接、居間まで迎えに行ってお送りしてこれますよ。帰りも居間までお送りします」とやり方を変えてみたところ、これが上手くいっており旦那様から「また通えてよかった。このままだったら、体力も落ちどうしようかなと考えていたんです」とのことだったので、働きかけてよかったなと思います。

グループホーム

*クリスマス会の後、直ぐに母の携帯から連絡がありました。よっぽど楽しかったようです。ありがとうございました。 (T.I様 ご家族様より)

* (プライベートレッスン契約終了に伴って)

頭で出来ると思っている事と体は違うから、もういいんです。次の目標は歩く事ではなく「東京オリンピックまで元気である事」が目標です (Y.S 様 ご家族様より)

柴田：こちらのプライベートレッスンはGHまことが行っているサービス内容ではなく、法人の中でリハビリの技師が個人契約に基づいて介護保険外で「歩く練習」「立ち上がる練習」等、訪問リハビリのような別のサービスの事です。GHまことでも個人契約をし、歩く練習をしていた方がいました。その方は東京の息子様の所へ、「また飛行機に乗って最後にもう1回行ってみたいんだ」という思いで歩く練習を強く希望していました。ただ、本人が想像している以上に体の機能が衰えていて、歩行器を使用して廊下を1、2回往復できる程度です。実生活で歩くことが可能になるかと言われれば、明らかに可能にならないケースでした。この方の家族様はとある病院の看護師長さんで、お母様の状態も良くわかっていました。プライベートレッスン料が介護保険外なので高い事もあり、続けてお金をかけていくよりも、趣味にお金をかけてあげたいという家族様の希望でプライベートレッスン自体の契約は解約となっています。

* (看取り支援)

前回入院して思ったけど、管なんか繋がらないのでありのまま死んでいく方が幸せだね。ばあさんも穏やかな顔しているし、この方法でよかった。まことさんと良かったね

(M.S 様 ご家族様より)

柴田：2回程前の運営推進会議の中でお話をさせてもらったり、事業所通信内の柴田奮闘記の中にもこちらの方のお話をさせてもらいました。病院の方では口からの食事は難しいと延命の話をし、家族様は延命を断って看取りの支援としてまことに帰ってきました。あれから4ヶ月経過後、今年1月2日ご自身の誕生日の日に亡くなられました。この方は徐々に食が取れなくなっていって、起き上がることも難しくなり、排尿が少なくなっていくという自然経過がキレイに進んで苦痛表情や苦しむことがまったくなかったです。その様子を家族様は面会にお見えになって見ている他、私達からも随時説明をしていました。家族様も実際に会い感じられていた内容でした。その中で息子様も「こういうような最期を今は選択できるんだね」という話をされていて、その後に出て来た話しの内容がこちらでした。

◎参加者からの質問

山田様：家族様の声いいね。柴田さんの奮闘記読んでます。皆さんで励まし合う、そういうシステムを作っておかないと若い方とかだと中々クレームには慣れていないと

思います。担当だからというのではなく、全員が全員で介護をするという形で行えると育っていくと思います。看取り支援について12月29日に母親がなくなって、同じ状態で手に取るようにわかります。長くいると覚悟から家族の行間に「ありがたい、まことさんでよかった」という言葉は重いものだと思いますので、職員の方は自信を持って感じてこれからもやっていってもらえたらなと思います。ありがとうございました。

西崎・柴田：ありがとうございます。

佐渡様：通いで来られた方の中には、名前は書いていたんですか。

西崎：書いていました。書いていない物の中にはあるんですけども、慣れ親しんでる方は持ってくるパターンが決まっているので「これは〇〇さんの物だよ」と明らかにわかるんです。新人や流れ作業で行っている職員は間違えます。流れ作業が一番指摘しなければならなくて、それに対しては私も口うるさく言っているつもりではいるんですけども。中には名前を書いてくれているご家族もおりまして、手帳には必ず名前が書いていますので。

佐渡様：白いシャツとか似ている物もありますから、間違える事もありますよね。

柴田：手帳も間違えるのですか？

西崎：手帳も間違えたこともあります。さすがにそれは流れ作業でやっているんだなと思いました。

佐渡様：ありえる事ですからね・・・怒る家族様もいますよね。

西崎：そうですね。すぐわかる事なので、気付いたらすぐ届けたりして大きなことにはなっていないですけども。

木田様：看取り支援なんですけど、私もおばさんとかお世話になった人のお母さんとか年齢的におじさんと同じ人が何人かいるんですけども。家内の母親がパーキンソンなんですけども、家内は延命治療はしないと書いていたんです。弟が横浜にいて家内が亡くなってからは、弟が面倒をみていて食事が出来なくなって胃ろうを選んだんです。それがよかったのかどうか、隣のおばさんも誤嚥で脳死状態になって延命治療をしているんです。私はかわいそうだなと思ってしまったんです。このまま延命治療しても、何もやってやれないと思いながら。

柴田：きっと突発的に「延命しますか？しませんか？」の判断を仰がれたら事前に心の準備が出来ていないので、「しません」という判断が難しいと思います。あとで後悔しても。もしかしたら、日常的になんでもない会話の中に自分の意思表示を家族にしていた方がいいのかもしれないですね。万が一、倒れてからではなくて・・・

山田様：施設の方から延命治療はやらない方がいいですよという事は言えないんですよ。

西崎：こちらからは言えないですね。

柴田：ないですね。

山田様：私は自分の身内で30年も前に経験しているので、延命は残酷だなというのはわかるんですけども経験がない人や遠くの身内方は生きる事を放棄すると感じてしまうんですよ。これは国民の意識の問題になってしまうんですけども、職員の方々

が直接は言えないにしても「大変ですよ。苦しみますよ」と逆に言うとそれが優しきではないのかなと思ったりするんだけども。法に触れない程度に。わからない人は自分で見殺しにしているのではないかと思うんです。看護師さんや職員さんが言ってくればわかるんだけどもね。

西村様：気に食わない人はずっとその言葉が残っているんですよ。中々難しいですよ。

山田様：本人の方から話してくれると一番ありがたいですよ。

柴田：私の母が60代なんですけど、会話の中で「最期の時」という話題が挙がっているんですよ。母も定年を迎えて自分の老後の生活を想像して、残された私達に負担が掛からないようにというのもある。今、とある病院に勤めていて、消化器の病棟では患者の入れ替わりや亡くなるスピードが速いんです。それを目の当たりにして、自宅で話す事が多くなりました。こういう話題や時間も必要なんだなと思いつつ話しています。

山田様：柴田さんのようにわかっているから話が出るけども、素人の中ではなかなか話す事ができないものなんです。死ぬっていきなり死ぬイメージしかないの、苦しい時間が長く続いたり、家族がどう支えていくかなどわからないんです。TVとかでもやってほしいんだけど、死ぬところや徘徊するところしかやらないですよ。初期段階から皆が考えなくてはならないと思うんですけどね、何か良い方法はないですかね。

柴田：ドキュメンタリーでも在宅の看取りを取り上げていますが、深夜に放送されていて。一番関心がある世代が見られる時間帯ではないのでね。

西崎：小規模の利用者様ではエンディングノートの勉強会があると「それ、出たい」という方もいらっしゃいます。

柴田：そう考えると利用者像が違うんだなと。自分で想像ができていて事ですし。

西崎：張り紙とかあったら「これ取り寄せとか出来ないの」と言って来る方もいます。

西村様：常に「こうしてほしい」とかを言っておくんですよ。三番目の奥さんと旦那さんの話はこれが人間の本性なんですよ。言葉はおかしいですけど、生き様というか死ぬ姿なんではないでしょうか。それまでは子共の為とか仮面を被っていたと思うんですよ。

柴田：お母さんは認知症になる前はどんな方だったんでしょうね。

西崎：亭主関白で父さんの言う事を何でも聞いていたんですけども、だんだん認知症が進んできて思うように行かなくなって。訪問販売にひっかかってしまい、怒られていたみたいですね。旦那さんも遊び歩いていた人だったみたいで。後ろ姿を子供達が見ているのかなと。

西村様：そうですよ。子ども達ははっきり覚えていますよ。それで考えていくんじゃないですかね。お互い良い様に生活できるようにと、私はそう考えています。

■11月・12月の事故報告について

	小規模 11月	小規模 12月	G H 11月	G H 12月
アクシデント	0件	1件	0件	0件
インシデント	4件	2件	8件	7件
ヒヤリハット	3件	5件	3件	3件

西 崎：アクシデントは12月3日に無断離所がありました。始めインシデントでの報告でしたが、アクシデントに相当するとの事で2週間以内に市に報告しています。内容としては、外から年配の女性が車椅子を押して来所。車椅子に乗っていたのはM様で女性から「責任者の方はいますか。どうなっているんですか。肺炎になったらどうするんですか」とお叱りを頂き謝罪・御礼をし女性は帰宅しています。管理者もどんな方だったかわからず、ガソリンスタンドの方で発見したという事で給油をしていた方かなと思われまます。家族様にも謝罪をし、その後のM様に特変はありませんでした。宿泊から通いに変更があったことを認められず帰宅願望が強かったです。鍵をつけていましたが、本人が開けた可能性があります。スタッフが4名いましたが誰も気付きませんでした。施錠を徹底する事にしています。あとはM様の来所時の服装を把握するようにしています。市からもスタッフが4名もいるのに気付かないのはどうなのかと指摘を受け、職員には指導しています。

柴 田：インシデントの報告が多いのは薬の事故です。薬に関しての事故には厳しくしており飲み忘れ等ではなく、食事の途中で飲ませてしまったなどです。一般的な事業所では事故報告は2分割でしか分けられていないため、これはヒヤリハットの内容となります。

■ 地域包括支援センター様・居宅支援事業所様からの声

西 崎：今回包括様はご欠席となっておりますので、質疑応答に移らせていただきます。

4 質疑応答ほか（意見交流）

グループホームまこと

平成27年度 外部評価結果の報告

平成27年度 実地指導の結果について

柴 田：評価結果

- ① 事業所は町内会行事に積極的に参加しており、盆踊りの手伝いはやぐら組みから行っている。又、介護の勉強会に地域住民を呼びかけ利用者は職員と一緒に参加している。ボランティアの訪問が多く外出嫌いの利用者にはボランティアとの交流が楽しみの一つになっている。
- ② 事業所は年間を通して研修会を取り組み、地域住民との交流やスキルアップをしている。
- ③ 管理者・職員の関係も良好で意思疎通や連携も出来ている。ケアに取り組む姿

勢は利用者・家族との信頼関係に繋がっている。

- ④ 家族と利用者の絆を大切に医療関係者と連携を図って、利用者の尊厳を守り穏やかな生活を送れるようにしている。十分の説明のあと要望があれば看取りを行い、最期までかわらない親身なケアに勤めている。という評価を頂いています。改善すべき点が1点、災害対策について。避難訓練に地域住民に運営推進会議などで呼びかけ、普段から地域住民に災害の際に協力してもらえるよう期待したいとありました。ご存知のとおり運営推進会議での地域住民の参加者が少ないというのが指摘にあがり、避難訓練の際もチラシを配り挨拶してはいますが参加まで繋がってはいません。市の方は事業所がどのような動きをしているかは把握しており、どれでも集まらない場合には努力は認めると話を頂いています。事業所は地域の方に呼びかけを続けて行くというので話はまとまっています。

もう1点、平成28年でGHまことは開設6年目を迎えます。5年ごとに事業所は更新申請を行わなければならない、更新申請の前には事業所のサービス内容や職員の勤怠管理・健康診断・利用料の徴収の方法・記録関係全てを市の職員が1日掛けてチェックしに来る日が実地指導としてありました。外部評価の1週間後に行われ、GHまことは改善・是正項目はなく適正な事業所運営がなされているという評価を頂きました。現在は更新申請に伴う手続きを順次しています。来年もよろしくお願ひします。

5 その他

- ・ 今後の活動について

(小規模多機能)

1月1日(金) 初詣～三吉神社～

1月14日(木) まことクッキング(おしるこ作り)

1月22日(金) まこと工作(焼嗅作り)

西 崎：2月は節分や鉦路町にある大地みらいでブースを設置してもらい、利用者様が作成した作品を開示する事となり見に行こうと思っています。開示期間は2月14日～17日までなので、その間に企画をしています。ここに記載はされていませんが、小規模も外部評価を3月中に行う予定です。昨年の法改正により本来であれば第三者機関を通して行うものですが、内部監査という形で小規模は評価を行う予定です。市の方に助言を求めながら用紙等を考え、今までの外部評価とずれなければ書式は問わないという内容でした。大町事務所と連携をとり3月中に行うための打ち合わせをしています。この結果は運営推進会議内で公表する事になっており、3月以降の会議内で報告致します。

柴 田：小規模連協では統一した様式を作成しないのですか？

西 崎：まだそのような話にはなっていない。まず市から書類のサンプルをもらったが、職員一人一人にアンケートなど内容が細かすぎて大変と判断して、直接問い合わせ

せをしたら書式は問わないが外部評価から外れた項目はやめて下さいと言われて
いるので考えています。

(グループホーム)

1月 初詣・カルタ大会・誕生会

2月 節分・誕生会・バレンタインのケーキ作り・ボランティア等

柴 田：初詣は4日間に渡り、宗教関係上で問題のない方に限り初詣に行っています。

4・5日に1階の利用者様、6・7日に2階の利用者様をお連れして参拝して
います。今週に終えています。1・2階利用者様合同で新春カルタ大会を行
っています。バレンタインのケーキ作りは職員がホットケーキまでは作り、果
物・クリームを用意し利用者様にご自分で飾り付けをして頂く行事を企画して
います。

次回開催予定日 平成28年3月16日(水)14時 小規模まこと2階リビングにて開催